

栃木県農業大学校 令和7年度学校評価シート

目指す方向 **魅力ある農大づくり ～農大の価値を高め、とちぎの農業を担う人材を育成する！～**

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会 からのコメントと回答
				学部・塾	内 容				
2 教育内容の充実	<p>(現状)</p> <p>○R6の学生向け授業評価アンケートの結果で、概ね理解できているとの回答が 69.5%と目標に達しなかった。とちぎ農業未来塾講義の満足度は91.8%と高い結果であった。</p> <p>○農業技術検定3級合格率は84.4%(R5 76.9%)、2級合格率は7.1%(R5は7.1%)であった。</p> <p>○非農家や農業高校卒以外の学生が増えており、よりきめ細やかな講義・実習が求められ、対応に苦慮している。</p> <p>○ICTやドローン等を活用した新技術、GAPの取組が実習ほ場等で拡大しつつある。R6年度に実習等でスマート農業に接した学生の割合は100%(前年度100%)。</p> <p>○高機能ハウス、ドリーム牛舎など最新型施設の整備が進む一方、施設、設備、備品の多くが老朽化しており、更新や修繕が進んでいない。</p> <p>○R2年度にYouTube配信による授業を行ったが、同時双方向型など教育効果を向上させるためのオンライン授業の拡充が求められている。</p> <p>○R3年度創設の「いちご学科」について、カリキュラムを着実に実施しつつ、問題点等の検証を並行して行っていく必要がある。</p>	<p>分かりやすい授業・講義(アンケート結果)</p> <p>・農業生産学部 大体分かる 80%</p> <p>・未来塾 満足度 80%</p>	(1)教育スキルの向上	<p>○職員(教員)研修会の開催等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新任職員への授業展開のポイント及び学生の特徴的な傾向説明</li> <li>・Google for Educationの活用</li> <li>・新任職員向け授業見学の実施</li> <li>・スクールカウンセラー(SC)による研修の開催</li> <li>・県総合教育センター主催の初任者研修への参加</li> <li>・県総合教育センターによる校内研修サポート(出前講座)の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・転入職員への教務部関係説明会を2回実施</li> <li>・Google for Educationの活用した授業を実施</li> <li>・新任職員授業見学を2講義(食物概論4回、植物生理3回)で実施</li> <li>・SCによる研修会参加(4月:11名参加)</li> <li>・総合教育センター初任者研修参加(4回:20名参加)</li> <li>・総合教育センター職員を講師に校内研修の実施(8月:18名参加、カウンセリングマインドについて)</li> </ul>	<p>分かりやすい授業・講義(アンケート結果)</p> <p>・農業生産学部 大体分かる 79.1%</p> <p>参考: 69.5%(R6)</p> <p>・未来塾 満足度 90.0%(基礎コース分)</p>	<p>・Google for Educationを活用した講義の利用拡大を図る。(教務部会での利用を呼びかける)</p> <p>・県教育委員会主催の研修を活用して教務部職員を多数参加させ人材育成を行う。</p>	<p>・職員の変動の幅を長く設定することで、腰を据えて職員を育成して欲しい。</p> <p>→職員育成の観点から、一定期間在職できるよう配慮に努めていく。</p>	
				<p>○指導者研修会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業教育機関指導者向け研修への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農大指導者向け研修1名参加(8月)</li> <li>・関東ブロック教育方法研修会(10月:1名)参加</li> </ul>				<p>・R8においても指導者研修会に参加し教育スキルを向上させる。</p>
				<p>○授業評価の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生向けアンケートの実施</li> <li>・職員(教員)向け授業改善方法の提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Google Classroomを活用して授業評価アンケートを実施(7~9月)前期全講義で評価(1~2月)後期全講義で評価</li> </ul>				<p>・R8においても授業評価アンケートを実施し、職員向け授業改善方法を提案し改善を確認</p> <p>・評価が低く改善の見られない外部講師は、次年度変更を検討</p>
				<p>○いちごの学部と研修担当間の栽培技術の高位平準化</p> <p>マイクロソフトTeamsを活用した病害虫防除体系等の情報共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Teamsチャットを活用し、担当職員間で病害虫防除薬剤のローテーションを情報共有</li> <li>・各専攻間の現地農場交流を行い、栽培技術の共有(10月)</li> </ul>				<p>・校内現地検討会や共同作業を通して栽培技術の研鑽を行う。</p> <p>・Teamsチャットを利用した最新情報の共有を行う。</p>

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会 からのコメントと回答	
				学部・塾	内 容					
			(2)生産技術、経営能力の向上	生産学部 経営学部 未来塾	○基本技術の徹底指導	○実践教育の実施 ・非農業高校卒かつ農作業未経験者への重点対応 ○農業技術検定に係る講義の充実	・非農業高校卒かつ農作業未経験者へは、実習中に個別にフォローして技術習得実施 ・生産学部教務部会で、検定内容・講義内容の確認と説明を実施。 ・10月～12月で9回、受験6科目について講師8名で講義 ・生産学部1年生58名 ・日本農業技術検定受験(12月)	農業技術検定合格率 ・校内結果 3級 91.3% 2級 5.7%  (昨年) 3級 84.4% 2級 7.1%	・次年度も各専攻実習の中で個別にフォローし技術習得を図る。 ・総合基礎講座での受験コース別指導を継続する。	<p>・座学、特に農業経営に関する学習を強化し、農業に夢を持ってもらう必要がある。</p> <p>・農大の強みとなるよう教育内容に磨きをかけ、カリキュラムの充実を図って欲しい。また、農大卒業生から意見を聞くことも有効</p>
			○先進技術の導入		○GAPに係る教育の充実 ・GLOBALG.A.P.の認証更新(日本なし) ・GLOBALG.A.P.の習得(果樹専攻) ・校内農場点検実習の実施	・GLOBALG.A.P更新審査(日本なし)を受検し、認証を取得(認証継続8年目) ・果樹専攻学生及び未来塾果樹コース研修生に対し、GLOBALG.A.P認証基準に基づく果樹実習の実施(990時間)	・GLOBALG.A.P.の認証継続による国際水準GAPの習得者を拡大させる。 ・「とちぎグリーン農業・GAP概論」の中で、農場点検等を実施し、GAPへの理解を深める。		一座学においても、外部の意見も聞きながら、質の高い、魅力ある内容に充実していく。	
			スマート農業に接する学生の割合 100%		○連携協定等による教育研修の充実 ・IFC調理製菓大学校との連携による加工実習の実施 ・全農等と連携したスマート農業機器の利用実習の実施	・IFC調理製菓大学校からの農業体験受入れ(5月、24名) ・IFC調理製菓大学校に出向き加工実習の実施(10月、露地野菜専攻11名) ・ドローン実演会の実施(9月、未来塾35名) ・無人トラクター実演会(10月、作物専攻) ・ハウス環境制御装置アグリネット研修会(11月)	・R8においてもIFC調理製菓大学校との連携を図る。 ・スマート農業機器の利用実習を拡大させる。			
	(課題) ●卒業後に円滑な就農ができるよう、基本知識・技術の習得はもちろん、先進技術の習得、資格取得等が必要である。 ●農業技術検定の講座は後期からであるが、前期の各専攻、学科の講義内での対策も必要である。 ●教職員の専門性や指導力の向上が必要である。 ●水田等への土地利用型作物の拡大、みどりの食料システム戦略等の施策に対応した実習が必要である。 ●ICTやロボット技術、ドローン活用等、スマート農業を取り入れた実習				○ICT技術・新品種等の導入 ・ICT技術や県オリジナル品種等の新品種を活用した栽培実習の実施	・ドリーム牛舎における行動モニタリングシステム(U-motion)及びカメラ・体温式分娩監視装置による牛の繁殖・分娩管理の実施(分娩11頭)、餌寄せロボットの導入と活用 ・ドローンを活用した水稻直播栽培の実施 ・施設野菜ハウスでのICT環境制御の実施 ・水稻「とちぎの星」、いちご「とちあいか」など県オリジナル品種の導入。	スマート農業に接する学生の割合 100%	・スマート農業、ICT技術や県オリジナル新品種を積極的に導入して、引き続き実習内容の充実を図る。		

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会 からのコメントと回答		
				学部・塾	内 容						
<p>が求められている。</p> <p>●施設、設備、備品の更新や修繕を着実に実施するため、計画的かつ効果的な予算の確保が必要である。</p> <p>●オンライン授業について、様々な場面での活用を念頭に、同時双方向型授業に向けた問題点の検証、模擬授業の実施等、着実な環境整備が必要である。</p> <p>●実習等の教育現場では、農作業事故や熱中症等への最大限のリスク管理が必要である。</p> <p>●「いちご学科」について、引き続きカリキュラム構成及び内容に関する検証や改善、農業振興事務所や受入先農家等との円滑な連携に取り組む必要がある</p> <p>●とちぎ農業未来塾では、基本技術に加え、新技術に対応した施設整備及び指導力の強化が必要である。</p>	<p>デジタル教育を利用する学生の割合 100%</p>	(3)主権者教育の充実		○土地利用型園芸技術の習得 ・たまねぎ、ねぎの機械化一貫体系利用実習の実施	・機械化一貫体系の農機を利用した、たまねぎ及びねぎの播種、定植、収穫、出荷調整作業を実習（3月～11月）		<p>・今後も、たまねぎ及びねぎにおいては機械化一貫体系の農機を利用した実習を実施</p>	<p>・農業現場には優れた生産者が数多く存在。こうした先進事例に直接触れることは大きな刺激となり、意欲向上につながる。</p> <p>・農家の生活全般を切り盛りする女性の視点で、実際の農家生活について学ぶことも非常に重要</p> <p>→先進的な事例や多様な視点を学ぶことで学生が成長している。現地研修の更なる充実に努める。</p>			
				○経営管理能力の習得	・実践的経営管理学習の充実 ・校外学習や経営特別講座による先進事例調査・講義の実施				・各専攻学科ごとに校外学習実施(合計20回)	<p>・引き続き1年生に県内農家の先進事例を見学させ、就農意欲を啓発する。</p>	
			○学生寮生活を通しての教育 ・共同生活を通じた生活習慣、社会生活マナーの養成	・5月 寮生会総会 ・9月 寮教育指導補助員との情報交換会 ・12月 寮生会主催イベント ・2月 退寮式、寮生会決算総会・寮担当職員、寮教育指導員の協力と寮生会長の活躍等で順調な寮運営	<p>・寮教育を通して、自立心、責任感、協調性を涵養していく。</p>						
					生産学部	○販売学習機会の充実 ・各種イベントや校外の一般店舗における販売促進活動の実施	・校外販売実習の実施（カインズホーム：9回）(再掲)			<p>・販売体験を継続し、商品化、ブランド化の意識醸成を図っていく。</p>	
						○社会生活講座・経営特別講座の充実	社会生活は8回（11～1月）、経営特別は7回（11～1月）の講座を開催 主な内容 経営特別講座(グリーンツーリズム、農産物の安心・安全、法人経営による経営強化等) 社会生活講座(こころの健康、悪徳商法対策、模擬選挙体験、依存症等)			講座受講後のレポートを参考に適宜テーマを見直し、次年度も実施	<p>・以前開催されていた「ビジネススクール」では、著名な経営者を招いた講義が学生の刺激やスキルアップに非常に有効であった。</p> <p>→未来塾やいちご学科では、すでに外部講師を積極的に活用。今後、他学科の学生も聴講できるよう検討したい。 また、校外学習では、優れた経営センスを持つ農家のもとで学ぶ機会を増やしている。</p>
					未来塾	○とちぎ農業未来塾の講義内容・講師等の検討 ・とちぎグリーン農業推進方針に対応する有機農業講座の開催	・有機農業実践研修を開催（座学2回、県内視察2回、県外視察2回）			<p>・次年度も引き続き講座を開催し、県内に広く有機農業を推進する。</p>	
		(5)授業・研修のオンライン、デジタル化			生産学部 経営学部 研修科	○PC等を活用したペーパーレス講義の実施	・講義においては、ペーパーレス化を徹底（プロジェクターで説明し、資料等はクラスルームで提供）			<p>・次年度においてもペーパーレス化を進めて行く。</p>	
	○オンラインを活用した講義による授業運営の効率化 ・実習ほ場のオンライン環境の整備				・オンライン環境整備(校内LAN)を整備 ・高大連携オンライン授業の実施(2校、4回実施)	<p>・高大連携事業などのオンライン授業を早期に実施する。</p>					

重点目標	現状と課題	評価項目 評価指標	具体的方策	取組項目		経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善方向	関係者評価委員会 からのコメントと回答
				学部・塾	内 容				
			(6)校内環境の整備・ リスク管理の徹底	生産学部 経営学部 未来塾	○学校施設・設備の維持管理 ・施設・設備の破損状況等の把握と計画的・効率的な修繕・改修	・計画的に施設の整備を実施 ・破損箇所については、適時修繕を実施		・施設、設備の状況把握を行い、計画的に修繕を実施する。	
			○施設・教育現場でのリスク対応点検の継続実施 ・ヒヤリハット事例の情報収集と対策の実施 ・ヘルメット着用等の安全作業行動の徹底 ・熱中症対策の徹底		・熱中症対策として、各実習場所に経口補水液等の熱中症対策グッズを配置 ・実習中の健康観察に加えて水分補給や休憩をすることで、熱中症の未然対策を実施 ・緊急避難場所マップを作成 ・安全衛生マニュアルを改正（「熱中症」対応フローを作成）し掲示 ・実習前のヘルメット着用等安全作業指導（随時）	・引き続き教育現場、農作業現場でのリスクマネジメントを徹底して行う。 ・夏期の農場実習時間を午前に変更する。			
			○環境美化の励行 ・環境美化通信の定期発行による意識啓発 ・分担区域の定期的な環境整備の実施		・学生部会、教授会を通して校内の清掃・美化活動を協力依頼	・学生へ環境美化への意識啓発を継続実施する。			
			○個人情報の適正管理 ・記録媒体や資料の持ち出し厳禁等、情報漏洩防止対策の徹底		・学生名簿・成績データに開封時のパスワード設定 ・学籍簿・入試出願書類は金庫に保管 ・不要な個人情報書類は必ずシュレッダーで廃棄	・引き続き適正管理に努める。			